



- 第 380 号**
 令和4年12月1日発行
- 巻頭言
 - 全日中大会報告①
 - 論文
 - さりながら
 - 前期情報
 - 事務局日誌



北海道庁旧本庁舎（赤レンガ庁舎）前庭の紅葉 札幌市立あいの里東中学校 寺田 実



Kポップから見る私たちの使命

北海道中学校長会 副会長 藪 智 樹

都倉俊一さんといえば、昭和歌謡とりわけピンクレディーのヒットナンバーを生み出した作曲家。今では文化庁長官である都倉氏が懸念されていることは、Kポップの背中が見えないほど、日本の文化であるポップカルチャーが引き離されてしまったことだそうです。理由として、日本のポップカルチャーは1億2千万人の日本の市場で勝つことを優先し、それで評価されれば、世界に出て行くという150年間身に付いた思考から離れられないからだそうです。さらに、韓国は日本の人口の半分、しかも日本よりも激しい少子化で人口の急減が目に見えていたためすぐに世界と戦う姿勢が明らかで、同じことが半導体にも携帯電話にも液晶TVにも言えるとのこと。

現在、次期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方（素案）が出され、議論の整理がなされています。その中の一つに教育DXが取り上げられています。国家戦略としての教育政策の転換、それがGIGAスクール構想。1人1台の端末を活用しての授業風景が当たり前となる幕開けです。計画を前倒して国家の意思が示されたことにより、全国の小中学校に配備されました。その端末を使い、個別最適で協働的な学習形態を通して「主体的・対話的で深い学び」に向かうことが求められ

ています。では、その学びはどこにつながるのでしょうか。教育DXとは単に学校のICT環境整備のことではなく、整備したICT環境を駆使した学校の仕事の構造のトランスフォーメーション、つまり生徒の学び方と先生の働き方の生まれ変わりのことであると浅野大介氏は御自身の著書で記しています。では「主体的・対話的で深い学び」は何を目指しているのでしょうか。その答えは、OECDラーニング・コンパス2030の中に見て取れます。それは、私たちが実現したい未来、すなわち個人及び集団としてのウェルビーイングの実現であり、そのために自ら課題を求めて解決に向かう自律型の学習者を育てていかねばなりません。

10月には全日中研究協議会北海道札幌大会が成功裏に幕を閉じました。新たな学びの機会となり、私にとっても、当事者意識をもって取り組むことの重要性を再確認できました。今後、国際社会における日本の立ち位置を見据えながら、VUCAの時代を生き抜く目の前の子供たちにこそ当事者意識をもった未来の創り手となるよう、日々の学びを創り上げていくことが私たちの使命と銘肝します。



第73回全日本中学校長会研究協議会 北海道（札幌）大会報告①

第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会は「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を研究大会主題とし、全国各地から900人を超える会員が参加し、ホテルライフオーソ札幌ライフオーソホールⅢを主会場に、オンラインにより開催された。

3日間の日程と主な内容について、2回に分けて報告する。

【第1日 10月19日(休)】

- 13:00～13:50 全日中常任理事会
- 14:00～16:00 全日中理事会
- 13:30～14:00 全体協議会運営委員会

【第2日 10月20日(休)】

- 9:30～10:20 開会式
- 10:20～12:10 文部科学省説明 全体協議会
- 13:30～16:30 分科会

【第3日 10月21日(金)】

- 9:20～9:50 アトラクション動画配信
- 9:50～10:10 全体会
- 10:15～12:15 記念講演 開会式

◆大会挨拶

**第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会
実行委員長 北海道中学校長会 会長 野崎 均 氏**



皆様イランカラプテ。第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会開会にあたり、実行委員会並びに運営委員会を代表しまして一言御挨拶を申し上げます。

大会開催に際しまして、オンラインで講演をいただく文部科学大臣官房審議官 初等中等教育局担当 安彦広斉様、開会式に御臨席を賜りました北海道副知事 小玉俊宏様、札幌市副市長 町田隆敏様、北海道教育委員会教育長 倉本博史様、札幌市教育委員会教育長 檜田英樹様、オンラインで参加いただいております全日本中学校長会前会長 宮澤一則様には、厚く御礼を申し上げます。

令和2年に大会準備委員会を発足させ、当初札幌市97人の校長が中心となり皆様を北海道に迎えての開催を目指し準備を開始いたしました。新型コロナウイルス感染症が依然収まりを見せないことから、安全で安心な大会の実現のためオンライン形式での開催といたしました。開催方法の決定につきましては、緊急対策本部会議での協議や各県理事の皆様からの開催方法に関する賛否回答のもと、5月の総会で御承認いただきました。御理解をいただき、心から感謝申し上げます。

ます。本当にありがとうございました。

さて今大会のスローガンは「イランカラプテ 北の大地から 新たな学びを紡ぎ その先へ」といたしました。「イランカラプテ」は御承知のとおりアイヌ語でございます。諸説ありますがこの言葉には、「イ」＝「それ（あなた）」、「ラム」＝「心」、「カラプ」＝「触れる」、「テ」＝「させる」というところから、「あなたの心に触れさせてください」という解釈があります。今大会を通して全国の校長先生方が心を通わせ、新たな時代の教育について思いを伝え合い深め合っただけならという願いをこの言葉に込めました。

また、大会の全体を一枚の「織物」に例え、「紡ぐ」という言葉をスローガンに用いました。織物は、経糸を先に張り緯糸を編み込みます。強靱な経糸と美しく織りなす緯糸とが補完し合い、織物が生まれます。経糸がよれてしまったり、緯糸の色がばらばらになってしまったりすると、美しい織物にはなりません。

私たち実行委員会並びに運営委員会は経糸になります。「カリキュラム・マネジメント」の推進や「主体的・対話的で深い学び」の実現、道徳教育や健康教育、キャリア教育の充実などの8つの分科会を経糸と捉え、しっかりと運営をしております。参加される皆様は緯糸となり、各分科会で議論を深めていただきたいと思います。そして私たち校長が、新たな国の教育の方向性と理念を深く理解するとともに、その土台となる「チームとしての学校」の実現や教職員の資質・能力の向上、指導体制の整備・充実、さらには働き方改革としての業務見直し等の課題解決に向けて一層連携・協働し、研究協議主題並びに全日中新教育ビジョンの実現に迫っていかれたらと考えます。その結果、今大会が我が国の中学校教育の充実と発展に少しでもつながることができたとしましたら、これほどうれしいことはありません。

今大会の準備は、令和元年の群馬大会に12人の校長が視察をしたところから始まります。そして和歌山大会、静岡大会の実績を受け、本大会を迎えております。これまでの大会を通して積み上げてきた研究の成果を引き継ぎ、全国の中学校の校長先生方の英知と総意が結集され、その結果紡ぎあげた経糸と緯糸で描く織物を、「その先」である大分大会へと確実につなげていくことができるように、実行委員会並びに運営委員会一同、全力で大会を運営してまいります。予期せぬトラブル等で御不便をおかけする場面もあるかもしれませんが、その際は皆様方のお力添えを重ねてお願いいたします。

最後になりますが、本日を迎えるにあたり御支援と御協力を賜りました、文部科学省、北海道並びに札幌市、全日本中学校長会や全国各地の校長会、教育関係機関の皆様にご心から感謝と御礼を申し上げ、挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

◆文部科学省説明

「最近の初等中等教育の動向」

文部科学省大臣官房審議官(初等中等教育局担当)

安彦 広齊 氏



文部科学省から以下の8点について、オンラインによる説明がなされた。

(1) 学校における新型コロナウイルス感染症対策について

年代別新規陽性者数の推移グラフからは、10代の比率が高まっていることから、中高校生の感染予防に学校は力を尽くしてもらいたい。また、データの母集団にやや偏りがあるものの、10代未満、及び、10代における新規陽性者の感染場所は「学校等」が最も多いことから校内における感染防止に引き続き留意していただきたい。「特定の学年・学級の臨時休業を行っている学校」及び「学校全体の臨時休業を行っている学校」はともに、前回調査(7/13)時点と比較して減少傾向にあるが東北を中心に増加している地方もある。「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の変更を令和4年7月15日に通知した。ここでは検査の活用例として、「地域の感染状況に応じて学校等の判断で部活動の大会前や修学旅行前等において何らかの症状がある場合等は検査を行い、陰性を確認した上で参加」、「自治体や学校等の判断で、教職員等に対する頻回検査や長期休業後等における教職員に対する検査」を示した。

濃厚接触者の待機期間については7日間から5日間へ見直した。また、感染により療養を開始する際や療養又は待機の期間経過後、医療機関や保健所が発行する証明書は不要となる。感染者の療養期間については発症日から7日間経過し、且つ、症状軽快後24時間経過した場合には8日目から解除とする。

(2) 学習指導要領、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(中教審答申)について

学習指導要領改訂の際に「どのように学ぶか」「何を学ぶか」「何ができるようになるか」の3つの視点を示した。まずは、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行っていただきたい。

中央教育審議会初等中等教育分科会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)においては、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」で目指す学びの姿として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことを示した。

中央教育審議会初等中等教育分科会においては、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するために、①1人1台端末等を円滑に活用した児童生徒への学習指導・生徒指導等の在り方、②教科書、教材、関連ソフトウェアの在り方、③学校内外の環境整備の在り方のそれぞれについて検討を行っている。

(3) 幼児教育と小学校教育の架け橋について

中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会における審議経過について報告する。幼児教育の質的向上と小学校教育との円滑な接続を図り、接続期の教育を充実する必要がある、本委員会においては全ての子供に学びや生活の基盤を保障するための方策や体制整備等を審議している。また、研究機関による幼児教育の質保障に係る調査研究として「幼保小の架け橋プログラム」、幼児教育の質の向上を支える自治体への支援、幼児教育の質を支える教育環境の整備を実施している。

(4) GIGAスクール構想の推進について

GIGAスクール構想の実現のため、児童生徒の端末整備支援、学校ネットワーク環境の全校整備、学習系ネットワークにおける通信環境の円滑化、GIGAスクールサポーターの配置促進、緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備、等に令和元年度と2年度で合計4,819億円の予算を執行して

きた。令和3年度末の段階で、全国の自治体の98.5%が義務教育段階における1人1台端末を整備した。課題として、運用の地域差、ネットワーク回線の遅さ、教師に設定等の負担が集中、指導者用端末の未整備、遠隔授業実施環境が不十分、デジタル教科書の導入が不十分、等が顕在化した。対応として、①学校への支援をワンストップで担う「GIGAスクール運営支援センター」を各都道府県等に緊急整備、②教師にも1人1台端末を整備、③デジタル教科書の活用や配信基盤の整備、等を行ってきた。GIGAスクール運営支援センターは民間事業者を活用し、ネットワーク点検・応急対応、ヘルプデスクの運営及びサポート対応、ネットワークトラブル対応、支援人材の育成、休日・長期休業等トラブル対応、等の業務を行っている。また、学校のICTを活用した授業環境高度化推進事業として、教師に端末を追加整備する際に不足する分(教員数-普通教室数)をはじめ、オンライン教育推進機器、遠隔教育支援ツール等のICTを活用した授業環境の高度化に資する機器等を追加的に整備する場合の経費について補助を行っている。さらに、学習者用デジタル教科書普及促進のため、①学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業、②学習者用デジタル教科書のクラウド配信等の設計に関する検証事業、③学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業、④学習者用デジタル教科書を活用した教師の指導力向上事業、デジタル化に対応した教科書制度の見直しに向けた調査研究事業を推進している。文部科学省では、デジタル教科書の効果的な活用を普及促進するため、デジタル教科書の効果的な活用に関する事例集や研修動画を作成し、文部科学省HPにて公表している。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/seido/1407731.htm

令和5年度においては、①地域・学校間格差の解消、②子供の学びの変革、③校務・教育行政のDX、等の推進のための予算を概算要求している。

令和2年12月に設置した「GIGA StuDX推進チーム」においては、①教育委員会等と協働のためのネットワークを構築、②特設ホームページ「StuDX Style」、メールマガジンによる情報提供、③全国の教育委員会等の担当者向けオンライン連絡会議の実施や市町村の担当者向けオンライン相談会に対する開催支援を行っている。特設ウェブサイト「StuDX Style」においては、①活用のはじめの一歩となる「慣れる」「つながる」活用事例、②各教科等での活用事例、③STEAM教育等の教科等横断的な学習に取り組んでいる事例、等を紹介している。<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

(5) 小学校における35人学級の計画的な整備と高学年の教科担任制の推進について

公立小学校の学級編制の標準を段階的に40人から35人に引き下げた。その効果について令和4年度から7年度にかけて、少人数学級及び外部人材活用が児童生徒の学力や社会情動的スキル等に与える効果や教員に与える影響等について実証的な調査研究を行い、今後の学校における望ましい指導体制の在り方について検討する。

政府の方針として、経済財政運営の改革と基本方針2022(令和4年6月7日閣議決定)、及び、新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画・フォローアップ(令和4年6月7日閣議決定)において、「35人学級等についての小学校における多面的な効果検証等を踏まえつつ、中学校を含め、学校の望ましい教育環境や指導体制を構築していく」と示している。

(6) 教師の資質能力の向上等について

校長及び教員の資質の向上のための施策をより合理的且つ効果的に実施するため、公立の小学校等の校長及び教員の任命権者等による研修等に関する記録の作成並びに資質の向上に関する指導及び助言等に関する規定を整備し、普通免許状及び特別免許状の更新制に関する規定を削除する等の措置を講じた。関連して、「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針の改正」を行い、教師に共通的に求められる資質能力を、①教職に必要な

素養、②学習指導、③生徒指導、④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応、⑤ICTや情報・教育データの活用への5つの柱で再整理した。さらに、教職に必要な素養として豊かな人間性、責任感、人権意識、社会性、使命感、教育的愛情、倫理観等を示した。

校長に求められる資質能力としては、教職員の資質向上などの人材育成の役割、「アセスメント能力」（様々なデータや学校が置かれた内外環境に関する情報について収集・整理・分析し共有する）、「ファシリテーション能力」（学校内外の関係者の相互作用により学校の教育力を最大化する）を示した。

研修履歴については、国が全国的な研修履歴記録システムを構築することになっており、その履歴を基に校長等が、期首面談・期末面談等の場を活用し、新たな研修の受講を奨励することとなる。研修受講に課題のある教師へは、職務命令を通じて研修を受けさせる。また、指導に課題のある教師に対しては受講奨励を行うことで早期に効果的な対処が可能となる。

なお、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励の意義は、研修の管理を強化するものではなく、教師と学校管理職とが、研修履歴を活用して対話を繰り返す中で、教師が自らの研修ニーズと、自分の強みや弱み、今後伸ばすべき力や学校で果たすべき役割などを踏まえながら、必要な学びを主体的に行っていくことにある。

(7) 学校における働き方改革について

令和3年度教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査結果からは、時間外勤務月45時間以下）の割合を令和元年度との比較において、小学校が2～16%程度増加し、中学校は4～14%程度増加する等、概ね改善傾向にある一方、依然として長時間勤務の教職員も多い状況であった。本調査を①勤務時間管理の徹底、②働き方改革に係る取組状況の公表、③学校及び教師が担う業務の役割分担・適正化、④学校行事の精選や見直し、⑤ICTを活用した校務効率化、⑥スクール・サポート・スタッフの活用促進、⑦部活動指導員の一層の配置促進、の観点から十分に活用していただきたい。

「全国の学校における働き方改革事例集」を全体的に改訂し、令和4年2月に公開した。内容は①ICTを活用した校務効率化、②教員業務支援員の有効活用、③約150の事例と削減時間目安、④ICT環境を活用した校務効率化の方法、である。

今年度、公立小学校・中学校等教員勤務実態調査を実施する。最新の勤務実態を把握するとともに、前回（平成28年度）の勤務実態調査結果との比較を行い、さらに、学校における働き方改革に向けて実施した各種施策の効果を検証し、新型コロナウイルス感染症への対応が教師の勤務実態に与える影響を明らかにする。

(8) 特別支援教育について

特別支援教育の現状について以下の4点を報告する。①少子化により子供が減少する一方で、特別支援教育の対象となる子供の数は年々増加しており、特に特別支援学級の在籍者数の増加が顕著である。②特別支援学級の学級担任については臨時的任用教員の比率が通常学級より高い傾向がある。③特別支援学級等での教職経験の無い校長は小学校で70.6%、中学校で75.4%を占める。④特別支援学級（小・中学校）担当教員で、小・中学校教諭免許状に加え、特別支援学校教諭免許状を保有している割合は31.1%である。

新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議においては、特別支援教育を担う教師の専門性の向上に向けて、教育職員免許法体系に、特別支援学校学習指導要領等を根拠にした、知的障害者である子供に対する教育を行う特別支援学校の各教科等、自立活動、重複障害者等に関する教育課程の取扱いや発達障がい位置付けることについて検討を行っている。

特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議においては、「全ての新規採用教員がおおむね10年目ま

での期間内において、特別支援学級の教師や、特別支援学校の教師を複数年経験することとなる状態を目指し、人事上の措置を講ずるよう努める」、「採用から10年以上経過した教師についても、特別支援教育に関する経験を組み込むよう努めること」について検討を行った。

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査を令和4年1月～2月に実施した。結果については有識者会議を開催し、公表する予定である。

学校に在籍する医療的ケア児の数は年々増加傾向にある。このため、学校における医療的ケアの体制を充実する上で参考となる資料を作成したので活用していただきたい。

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の一部を改正する法律により、事業者による社会的障壁の除去の実施に係る必要かつ合理的な配慮の提供については、現行の努力義務から義務へと改められた。

(9) いじめ・不登校支援・児童虐待対応等について

コロナ禍における児童生徒の自殺者数は増加傾向（R2:499人）にあり、特に女子高校生の自殺者数は増加（R2:140人）が著しい。原因・動機としては、「進路に関する悩み（入試に関するものを除く）」、「学業不振」、「親子関係の不和」が例年上位。今後の課題として、SOSの出し方に関する教育を含む自殺予防教育による援助希求の態度の育成、相談体制等の整備に加え、ハイリスクな児童生徒の早期発見・対応に資するICTの活用も重要であり、また、学校現場に限らない背景による自殺に対応するため、関係機関との連携体制の点検・見直しが重要である。

小・中・高等学校における、不登校児童生徒数は、小学校63,350人（100人に1人）、中学校132,777人（24人に1人）、高等学校43,051人（72人に1人）となっており、合計で、239,178人（前年度231,372人）と増加傾向である。学校内・外いずれの機関においても相談・指導を受けていない不登校児童生徒は34.3%も存在しており、相談につながりにくい、課題を抱えている児童生徒を学校・教育委員会において早期に把握し、適切な支援につなげていくことが必要である。

令和2年度における児童相談所の児童虐待相談対応件数は、205,044件。平成11年度に比べて約18倍。心理的虐待の割合が最も多く（59.2%）、次いで身体的虐待の割合が多い（24.4%）。相談経路は、警察等（51%）、近隣知人（13%）、家族（7%）、学校等（7%）からの通告が多くなっている。

「学校、保育所、認定こども園及び認可外保育施設から市町村又は児童相談所への定期的な情報提供に関する指針」が改訂され、「学校・保育所等は保護者等から要保護の幼児児童生徒等が学校・保育所等を欠席する旨の連絡があるなど、欠席の理由について説明を受けている場合であっても、その理由のいかんに関わらず、休業日を除き引き続き7日以上欠席した場合には、定期的な情報提供の期日を待つことなく、速やかに市町村又は児童相談所に情報提供する」と追記された。

ヤングケアラーに関する小中高大生調査結果からは、世話をしている家族が「いる」と回答したのは小学生6年生6.5%、中学2年生で5.7%、全日制高校2年生で4.1%、定時制高校2年生相当で8.5%、通信制高校生で11.0%、大学3年生で6.2%であった。

文部科学省としては、①早期発見に向けた研修等の実施、②支援に向けた教育相談体制の充実、③厚生労働省との連携、等の取組を進めている。

平成22年に生徒指導提要が作成されて以降、10年以上が経過したため、今日的な状況を踏まえ、「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」において改訂作業を行っている。改訂の基本的な方向性として、①「積極的な生徒指導」の充実、②個別の重要課題を取り巻く関連法規等の変化の反映、③新学習指導要領やチームとしての学校等の考え方の反映、等、教職員や関係機関の職員等が参照しやすくなるように留意している。

論文

学校改善の取組を通じた協働的な学校運営の在り方 ～協働的効力感の醸成と校長のリーダーシップの問い直し～

1 現状・背景と提言の方向性

文科省が示すように¹チームとしての学校を実現するために学校のマネジメント機能の強化が求められ、校長のリーダーシップと学校の組織化・協働化が期待されている。その指摘を待つまでもなく、学校運営と組織化や協働化との関係性については、(学校経営学上)多くの先行研究がある。例えばエドモンズの「効果のある学校」(1986)、志水の「『力のある学校』の研究」(2009)²では「気持ちのそろった教職員集団」が学校の教育効果を高めることが報告されている。また、牧が開発した「学校経営診断カード」³によれば組織運営的要因を数値化し学校経営にどう影響するかを知ることが可能である。筆者もこれまでの経験から、組織的で協働的な学校運営は何となく良いという肌感覚はあるが、では、いったい何をどうすれば協働的な学校運営になるのかという疑問が生まれる。そこで、本稿では淵上(2005)の「教師の協働的効力感」に着目し、現任校の学校改善プロセスの実践を紹介しながら、協働的な学校運営の在り方を示し、校長のリーダーシップの問い直しを提唱したい。

2 学校改善の実践と成果

昨年度、採用校長として赴任し4月当初には学校経営方針(前任者作成)を発出した。教職員は目の前の業務を一生懸命に取り組み、差し障りなく日々の教育活動は進んでいったのだが、「何のためにやっているのか」というコンセンサスは見えなかった。イソップ寓話「3人のレンガ職人」で例えるなら「ただレンガを積んでいるだけ」という状態である。そこで5月からは「学校経営の重点」を校長から発信し、月々の教育活動の重点の確認と「何のために」それに取り組むのかという1ヶ月(中期的な)ビジョンの共有を図った。(それなりの効果は見えたと付け焼き刃感はない)

そうした現状を受けて、筆者は夏休み中に「学校改善研修」の構想を作成する。教頭との協議を経て10月の職員会議で「学校改善研修の進め方」を提案。その目的と今後のスケジュールを示し全教職員に参加をお願いした。なぜ学校改善なのか?淵上によれば教師の協働的効力感とは「よりよい学校づくりのために、学年や分掌など立場の違いを互いに認め、克服しつつ、互いに協力し合う関係を形成できる信念」⁴と述べており、教師自らの職場を協働的と捉えていることが、日常の職務や同僚教師、他分掌との交流に肯定的な影響を

浜中町立浜中中学校 蝦名 武 宣
もたらすことが明らかにされている。淵上の先行研究では、協働的効力感の尺度を測定するための認知構造の一つに「学校改善への意欲」が示されている。これに依拠し学校改善を全教職員で取り組むことで協働的効力感が生まれ、延いてはそれが学校組織の組織化と協働化につながると考えた。

実施した学校改善研修は11月に2回(ワークショップ形式/子供に求める資質能力の確認・本校の強み弱みのチェック)、12月に2回(協議形式/新グランドデザインの提案・修正等)実施し、冬季休業中に令和4年度の学校経営方針(初版)を発表するに至った。こうした作業を通して全教職員で目指す子供像を共有し、それを支える学校像と教師像を描き、14年ぶりに学校教育目標の全面改訂をした。全教職員の知恵をボトムアップで収集し、校長が整理して完成させた新たな学校教育目標は、全教職員が自分事として学校改善にコミットした結晶である。全ての教育活動で目指す「ココ」を全教職員で創造することで学校組織としての協働性が高まったと同時に、チームの一員として学校づくりに参画する意識が醸成された。

3 今後の課題と校長のリーダーシップ

新たな学校教育目標でスタートした今年。各分掌から発出される教育活動計画なども目指すところは何か明示化されてきた。これは教職員一人一人が学校教育目標を意識している証左であろう。他者と協働し自分事として参画した学校改善への取組が教職員の意識改革につながったと考える。今後は①不断の学校改善に取り組むこと ②全教職員が自分事として学校運営に参画する態度の育成 ③協働的効力感を生かした協働的職場風土の醸成 が校長としての継続的な課題である。

最後に、校長の献身的なサーバントリーダーシップは協働的な組織マネジメントを発揮し、学校組織における協働的効力感の高まりを導くが、それとは逆機能が働く同調的職場風土(同調圧力に支配された職場)は職場の意思統一が図りやすいという特性をもつことから、校長が独善的なデビルリーダーと化すこともあり得ることを注意しなければならぬ。

【参考文献・引用文献】

- 1, チームとしての学校の在り方と今後の改善方針について(答申)
- 2, 志水宏吉, 「『力のある学校』の探求」, 2009, 大阪大学出版会
- 3, 牧 昌見, 「学校改善の実践と課題」, 2008, 教育開発研究所
- 4, 淵上克義, 「学校組織の心理学」, 2005, 日本文化科学社

文芸

目指すは、「故郷」の活性化

函館市立恵山中学校 橋本智也

ほんの2, 3年前, 5月はツツジ, 2月はごっこ(ホテイウオ)として, それぞれのイベントの際には大盛況で活気を帯びていた恵山。函館から約1時間の地にあり, 登山や温泉などを楽しむ観光客で賑わっていた場所です。しかし, コロナ禍により飲食を伴うイベントは軒並み中止となり, 当地の代表的施設である道の駅「なとわ・えさん」の利用者をはじめ, 観光客は激減し, その影響は生徒とその保護者にもじわじわと及んでいます。早期の収束を誰もが切に願っている状況です。

かつて函館からの国道が恵山の海岸線まで伸びたときには, 函館駅から下海岸を通るバスに乗り, 活火山「恵山」(618m)や自然の景観を味わうたくさんの市民がいたようです。さすがに現代では様々な楽しみ方があるため, 魅力を感じたり心を引かれたりということは困難であり, 集客という点では優れているとは言いがたいものがあります。

しかし, コロナ禍ゆえのアウトドアブーム。道の駅に隣接したキャンプ場には, 道内各地より多くのキャンパーが集結し, 思い思いの楽しみ方で食や自然を満喫しています。この状況に目をつけ, どうにかして地

域を活性化させようという思いを, ある生徒が学校祭で披露しました。「『なとわ・えさん』に人が集まる。何か策を打てば更なる観光客の増加, そして地域の消費の増加から, 経済波及効果もたらされる。道の駅に付加価値をつけ, 何度も訪れるリピーターをつくらう」と。生徒の大半は中学校卒業後, 市内各高校へ進学, その後は地域を離れます。昆布を主とした漁業への従事以外は就職口も少なく, 生活のためには致し方ないことです。この生徒の「現状を打開し, かつての輝きを取り戻したい」という強い思いには感心させられました。

昨冬, 過去になくタラバガニが水揚げされました。原因は解明されていませんが, 関係者は今後も期待しているようです。最近採れ始めたアワビや以前からのウニは勿論ですが, 地域興しをするPRの材料となる発想は, 若い世代だからこそ豊かで柔軟に生まれるはずです。少子化の加速・若年層の流出による地域の高齢化を防ぐためには, 地域の子供たちが故郷の良さを肌で感じ, 故郷の発展を考えることが必要です。その課題にしっかりと立ち向かう地力となってもらいたいと思った瞬間でした。

文芸

蘭亭序の臨書

別海町立中春別中学校 岩崎撰也

若いころに高校で書道を教えていた時期があり, そのころは各種展覧会の入賞を目指して作品づくりに取り組んでいました。今思えば賞を取り, 名を上げる思いが強く, よこしまな動機で「書」に向かっていたと思います。その後社会教育行政の道に入り, いつしか「書」の世界と遠ざかっていました。

半年ほど前にネットショッピングで絶版となっている今井凌雪の折本手本「臨王羲之(おうぎし)蘭亭序」を手に入れることができました。書家が書いた古典の臨書, 書を学ぶ者のための手本です。

ちなみに現存する王羲之の作品は全て模本(時代の一流とされる書家たちが真筆に薄い紙を乗せ, 籠字をとって写し取ったもの)であり, 本物の蘭亭序は中国唐の時代の皇帝太宗が王羲之の書, とりわけ蘭亭序をこよなく愛し, 没するに当たって自らの墓に副葬品として埋蔵させたと伝えられています。そして現在, 数種類存在する王羲之の蘭亭序は北京の故宫博物院などに国宝として収蔵されています。

王羲之がこの作品を書いた時代は4世紀, 太宗皇帝がその模本を造らせたのは10世紀, 以来千年あまりの長い時間, 書道史上もっとも尊ばれる古典としてそ

の時々を書を志す者たちに連綿と学ばれてきました。書を志す者が古典を手本として臨書をするこの意義は, 書の美しさを構成する要素に気づき, 何度も何度も練習する中で自分の技として体得することにあります。

大学で書道を専攻して最初に習ったのが王羲之の蘭亭序, そして今井先生は故人となりましたが, 大学時代の恩師の師匠に当たる人で, 黒澤明の映画「乱」の題字などを揮毫(きごう)した日本を代表する書家の一人です。初心を懐かしく思い出す気持ちと大師匠の圧倒的な筆力に「書」の魅力が改めて感じ, 再び書の世界に引き込まれる契機となりました。押し入れから書道道具を引っ張り出し, 3ヶ月かけて蘭亭序324文字, 半紙54枚の清書を完成させました。

その日使う墨を磨り, 手本に向かう時間は, 自分の未熟さを感じながらも一瞬ごとに新たな発見があります。清書を1枚仕上げる度に一步前進したという満足感があります。締め切りに追われず, 誰に誇るためでもない, 自分だけの愉しみ, 尽きることのない探求の時間。30年ほども遠ざかっていた「書」の世界ですが, 心を遊ばせる豊かな時間を過ごせています。



留萌管内北部と上川管内北部に接する宗谷管内の幌延中学校に勤務して4年目になる。

毎年4月、20人前後の子供たちが入学してくる小規模な学校である。

先日、本町で6回目となるこども議会があった。3年生のみがこども議員として、町長や教育長に一般質問する町議会の議場である。こども議員からの質問が発端で、翌年度以降の町の施策として具現化したものもある。こども議会といえども、事前に幌延町役場関係者に質問を提示、町長や教育長が答弁するにあたって、各課職員が時間をかけて吟味する。とかく子供目線での質問だけ取り上げられるが、こども議員の質問づくりの際には、現職の町議会議員に議会運営のこと、一般質問の作り方、質問の仕方を事前にレクチャーしてもらった。当日は、こども議員として、幌延町のことを思って質問をぶつける。前向きな答弁がないこともある。そんなときは、後輩や町議会議員に託すこともある。

こども議会の閉会におけるこども議員の代表者の言葉に、このこども議会の立ち上げから深く関わってきた町議会議員が涙する場面があり、当日までの間、子供と関わる教職員が重要だったとも感じる。



八雲町は、渡島半島の北部にあり、国内で唯一となる太平洋と日本海に面する町である。平成26年度、昇任教頭として八雲町立熊石第一中学校（現・熊石中学校）へ着任した。八雲町内には中学校が4校あり、教頭として3つの中学校（熊石第一中学校、落部中学校、八雲中学校）を経験することになった。これほど長い期間八雲町で勤務することになるとは想像できなかった。その間、校長先生方をはじめ、多くの方々にお世話になった。今年度、校長として八雲町立野田生中学校に着任した。町内全中学校で勤務することができた。引き続き教育委員会の皆様や八雲町の先生方とともに仕事ができることに感謝した。

「GIGAスクール構想」推進の中で、八雲町は、八雲町教育委員会の全面的バックアップで、管内的にもいち早く児童生徒1人1台の端末（Chromebook）が整備され、ICT教育が本格化し、児童生徒、教師ともに端末の活用が日常化した。自宅への端末の持ち帰りも導入後すぐにでき、コロナ禍の中での双方向型のオンライン学習に円滑に取り組むことができた。各校のICT教育推進担当の先生方の御尽力の賜物であった。Chromebookを効果的に活用した授業を参観するため

知る怖さ 知らない前のめり感

幌延町立幌延中学校 小野篤夫

子供たちの支援に当たって、教職員が経験から培ってきたたくさんの引き出しや策の中から選択できればよいが、決してそうではない。

働き方改革のこともあるが、限られた時間の中で、どのように引き出しを増やしてあげるかが課題として見えてくる。先生方を見ていると少なからず、効果のないものはしない。効果がすぐ出て、目に見えるものだけを追う。

経験が浅かった頃、こんな意味があるのだろうかと思ったこともあったが、自分の知らないことには、知りたくて何にでも取り組んでみた。経験を重ねていくとひょんなことからつながり、不思議なくらいに新たな発想が生まれてくるのが分かった。知らないからの前のめり感は今も変わらない。

しかしながら、経営者となった今、時間軸の違いや自分はどうだったからこうあるべきだという考え方を変えていく必要があるということに気付く。

知る怖さである。知ると慎重になる。しない方がよいと思うとどれだけ楽かなと思う。ただ、子供たちや先生の姿を見て、自分のスタイルは間違っていたなども感じてきた。経営者として現状をよくしたいと考えるために知りたいという姿勢は継続していきたい。

八雲町にて

八雲町立野田生中学校 増田正弘

に他町から多くの視察訪問があった。ICT教育の推進とともに、令和3年度より八雲町教育委員会・確かな学び推進会議から「読解力」向上の取組が導入された。読解力の向上は児童生徒の「生きる力」の礎となるとともに、学力向上が図られることが大いに期待される。町内全小中学校が統一して読解力の向上に向かって研修活動が始まった。本校でも、これまでにリーディングスキルテスト（RST）の観点である「係り受け解析」「照応解決」「同義文判定」「推論」「イメージ同定」「具体例同定」について、また、RSTの結果を分析し、授業に取り入れ、授業改善にもつなげている。

八雲町には、教頭時代から長く勤務させていただき、今年度からは校長としてのリーダーシップを発揮しながら、端末（Chromebook）のより効果的で創造的な活用、さらに読解力の向上を目指して全力で取り組んでいく。先生方一人一人の研修意欲を高め、実践に活かせるように、校長としてバックアップしていきたい。八雲町の子供たちのよりよい成長のために、八雲町での勤務をできるならもう少し続けていきたい。

前期情報

北海道中学校長会 事務局長 笹川恒春

○道教委との情報交換会及び各課懇談会

道教委との意見交換会（昨年度より「文教施策懇談会」から名称変更）及び各課懇談会は、8月5日に3年ぶりの会場で開催されました。

意見交換会は「ICTを活用した学校の教育活動の推進について」をテーマに、北海道第二水産ビルを会場で開催。道教委からは倉本教育長をはじめ、教育部長、学校教育監ら14人が出席。道小・道中・道公教からは各会の会長及び役員計39人が出席し、とても和やかな雰囲気意見交換を行いました。各課懇談会は、会場をホテルライフオート札幌に移し、道教委から課長補佐15人と、道小・道中・道公教から約63人が参加し、3つの分科会に分かれて、各地区からの提言や道教委担当課からの具体的な説明を聞くことができました。なお、詳細については「道小情報・道中だより号外」で報告します。各教育局に対する要望活動の際に資料として活用していただければと思います。

○地区別教育経営研究会

今年度は7月27日の宗谷地区を皮切りに、12月7日の札幌市地区（中）まで各地区で順次開催される予定です。今年度は書面開催を行った地区はなく、3年ぶりに顔を合わせた研修を実施できた地区が増え、より充実した教育経営研究会となっています。

た教育経営研究会となっています。

○第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会

10月20・21日、全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会が、全国より900人の会員が参加してオンラインで開催されました。大会は、大会主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」に基づき、「イランカラプテ 北の大地から 新たな学びを紡ぎ その先へ」を大会スローガンに充実したものとなりました。

大会初日は、文部科学省説明、全体協議会、分科会が行われ、分科会ではブレイクアウトルームによるグループ協議を行うなど、熱心な研究協議となりました。

2日目は、アトラクション、全体会の後、信州大学特任教授の山口真由氏による「日本に突き付けられた新たな規範～ポリティカル・コレクトネス～」と題した講演が行われ、今後の学校経営の改善に資する大きな成果を得た大会となりました。

これまで約4年にわたり準備を進めてこられた、富川浩会長を中心とした札幌市中学校長会の皆様から感謝申し上げます。

道中事務局日誌

2022.7.4～11.11

月	日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所	
7	4	月	第1回北海道教員育成協議会Web(森田)	10:00	忠和中学校	
			公立高等学校選抜改善検討懇談会(笹川, 三浦)	15:00	道庁別館西棟	
			第1回新たな「特別支援教育に関する基本方針」の策定に向けた検討会議Web(野崎)	10:00	緑陽中学校	
			北海道教育推進会議(野崎)	13:30	第二水産ビル	
	6	水		令和4年度 全日中研北海道(札幌)大会 第8分科会(北海道地区担当) 事前打合せ会Web(野崎, 藪, 笹川, 三浦, 秀島, 吉本, 田丸, 高橋, 和田, 伊藤, 松岡, 桐洞専任職員)	11:00	各学校, 事務所
				第5回小中合同研修会(五役)	11:00	ホテルライフオート札幌
	14	木		小中合同事務局研修会・学習会	13:00	ホテルライフオート札幌
				令和4年度中学校技術・家庭科免許取得のための認定講習検討会議Web(高橋正, 農田)	11:00	各学校
	15	金		北海道学校給食広報編集委員会Web(鏡)	11:00	青翔中学校
				全日中研北海道(札幌)大会運営委員会(越田, 笹川, 三浦)	12:30	ホテルライフオート札幌
	19	火		令和4年度第1回北海道自殺対策連絡会議 書面開催(河村)		
				全日中臨時常任理事会Web(野崎)	13:30	緑陽中学校
	20	水		第1回 北海道男女平等参画審議会(吉本)	13:30	第二水産ビル
				第1回北海道高等学校奨学生選考委員会(小森)	13:30	ガーデンパレス
	22	金		宗谷地区 教育経営研究会Web(山田)	13:45	早来中学校
				第1回がん教育総合支援事業連絡協議会Web(高橋泰)	15:00	東明中学校
	29	金		北海道高等学校奨学会 第2回理事会(吉本)	14:00	札幌ガーデンパレス
				旭川市中学校 地区別教育経営研究会(森田, 坂本)	10:00	旭川市大雪クリスタルホール
	8	火		上川地区 地区別教育経営研究会(森田, 坂本)	13:30	東川町農業改善センター
小樽市地区 地区別教育経営研究会(村上, 吉本)				13:00	小樽ジブラルタ生命ビル	
3	水		日高地区 教育経営研究会(鏡)	9:30	新冠町レ・コード館	
			後志地区 地区別教育経営研究会(中村)	10:50	倶知安町ホテル第一会館	
5	金		道教委との意見交換会(五役, 藪, 藤田, 本川, 畠山, 伊藤, 瀧澤, 小森, 河村, 山田, 鏡, 坂本, 高橋泰, 越田, 前田, 吉本, 田丸, 工藤, 小泉, 中村)	13:30	第二水産ビル	
			各課懇談会(五役, 藪, 藤田, 本川, 畠山, 伊藤, 瀧澤, 小森, 河村, 山田, 鏡, 坂本, 高橋泰, 越田, 前田, 吉本, 田丸, 工藤, 小泉, 中村)	15:20	ホテルライフオート札幌	
8	月		全日中研札幌大会 実行委員会WEB(五役, 副会長, 研修部, 専任職員)	13:00	各学校, 事務所	
			北海道教育推進会議(野崎)	13:30	第二水産ビル	
17	水		全日中研北海道(札幌)大会運営委員会(越田, 笹川)	12:30	ホテルライフオート札幌	
			第6回小中合同研修会(五役)	10:00	道小事務所	
19	金		第2回五役研修会Web(五役, 副部長, 専任職員)	10:30	各学校, 事務所	
			釧路市・釧路地区 地区別教育経営研究会Web(野崎, 小泉)	13:00	各学校	
23	火		根室地区 地区別教育経営研究会(三浦, 高橋正)	13:00	中標津トーヨーグランドホテル	
			平井全日中会長, 富士道事務局長挨拶回り 倉本道教育長, 小玉道副知事(笹川)	10:30	新千歳空港, 道庁別館, 道庁本館	
24	水		平井全日中会長, 富士道事務局長挨拶回り 町田副市長, 檜田市教育長(笹川)	9:30	札幌市役所, 札幌市教育委員会	
			北海道部活動関係会議Web(野崎)		緑陽中学校	
25	木		第5回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	10:30	ホテルライフオート札幌	

月	日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所
9	1	木	令和4年度(2022年度)女性教職員活躍推進会議Web(三浦)	13:30	琴似中学校
			北海道教育推進会議高等学校専門部会Web(野崎)	9:30	緑陽中学校
2	金	胆振地区 地区別教育経営研究会(野崎, 山田, 鏡)	胆振地区 地区別教育経営研究会(野崎, 山田, 鏡)	10:00	苫小牧市教育・福祉センター
			学制百五十年記念式典(野崎)	15:00	国立劇場(東京都千代田区)
7	水	全日中研北海道(札幌)大会会場打合せ(笹川)	全日中研北海道(札幌)大会会場打合せ(笹川)	12:30	ホテルライフオーポート札幌
			北海道産業教育審議会WT会議(笹川)	10:30	第二水産ビル
14	水	第71回全道へき地複式教育研究大会胆振大会(野崎)	第71回全道へき地複式教育研究大会胆振大会(野崎)	13:00	洞爺湖文化センター
			渡島・函館地区 地区別教育経営研究会(笹川, 高橋泰)	13:30	北斗市かなでーる
21	水	第1回北海道社会教育委員の会議兼第16期北海道生涯学習審議会Web(田丸)	第1回北海道社会教育委員の会議兼第16期北海道生涯学習審議会Web(田丸)	14:00	手稲西中学校
			全日中研札幌大会 実行委員会WEB(五役, 副会長, 研修部, 専任職員)	13:00	各学校, 事務所
22	木	第3回副会長研修会Web(五役, 副会長, 専任職員)	第3回副会長研修会Web(五役, 副会長, 専任職員)	14:00	各学校, 事務所
			第3回理事研修会Web(五役, 副会長, 地区理事, 幹事, 専任職員)	14:45	各学校, 事務所
26	月	北海道教育の日幹事会(三浦)	北海道教育の日幹事会(三浦)	15:00	ホテルライフオーポート札幌
			北海道中学校体育連盟 臨時常任理事会Web(吉本)	10:00	稲穂中学校
27	火	第15回全日中研北海道(札幌)大会運営委員会(越田, 三浦, 笹川)	第15回全日中研北海道(札幌)大会運営委員会(越田, 三浦, 笹川)	12:30	ホテルライフオーポート札幌
			令和4年度特別免許状検定協議会・書面開催(森田)		忠和中学校
28	水	留萌地区 地区別教育経営研究会(河村)	留萌地区 地区別教育経営研究会(河村)	10:00	羽幌町中央公民館
			北海道教育推進会議高等学校専門部会Web(野崎)	9:30	緑陽中学校
27	火	日本教育会北海道支部第2回理事研修会Web(野崎・笹川)	日本教育会北海道支部第2回理事研修会Web(野崎・笹川)	15:00	各学校
			第73回全日中研北海道(札幌)大会Web接続テスト(大会参加者)	10:00	各所
28	水	オホーツク地区 地区別教育経営研究会(村上, 前田)	オホーツク地区 地区別教育経営研究会(村上, 前田)	13:00	北見市端野公民館
			第3回五役研修会Web(五役, 副部長, 専任職員)	10:30	各学校, 事務所
10	3	火	石狩地区 地区別教育経営研究会(小森)	15:00	北広島市石狩教育研修センター
			令和4年度教育研究論文審査委員会・書面開催(野崎, 高橋正)		
5	水	北海道中学校体育連盟 第3回副会長会Web(吉本)	北海道中学校体育連盟 第3回副会長会Web(吉本)	13:30	稲穂中学校
			全日中研北海道(札幌)大会8分科会フルバージョン最終確認Web(伊藤, 桐淵, 松岡, 高見, 吉本, 田丸, 野崎, 笹川, 高橋正, 三浦)	9:30	各学校, 事務所
6	木	第6回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	第6回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	10:30	ホテルライフオーポート札幌
			十勝・帯広地区 地区別教育経営研究会(小森)	12:50	幕別町札幌内コミュニティプラザ
7	金	檜山地区 地区別教育経営研究会(田丸)	檜山地区 地区別教育経営研究会(田丸)	15:30	乙部町公民館町民会館
			第69回日本PTA北海道ブロック研究大会 オホーツク・北見大会(野崎)	9:30	北見市民会館
11	火	第16回全日中研北海道(札幌)大会運営委員会(野崎, 越田, 三浦, 笹川)	第16回全日中研北海道(札幌)大会運営委員会(野崎, 越田, 三浦, 笹川)	12:00	ホテルライフオーポート札幌
			令和4年「安全安心なまちづくりの日」道民の集い(小泉)	13:30	かでの2・7
14	金	全日中研札幌大会 第8回実行委員会WEB(五役, 副会長, 研修部, 専任職員)	全日中研札幌大会 第8回実行委員会WEB(五役, 副会長, 研修部, 専任職員)	13:00	各学校, 事務所
			北海道中学校体育連盟 第2回常任理事会Web(吉本)	13:30	稲穂中学校
17	月	第73回全日中研北海道(札幌)大会前日 開会式リハーサル・分科会運営委員会・分科会リハーサル	第73回全日中研北海道(札幌)大会前日 開会式リハーサル・分科会運営委員会・分科会リハーサル	9:00	ホテルライフオーポート札幌
			(五役, 越田, 吉本, 田丸, 高橋正, 山田, 伊藤, 桐淵, 松岡, 高見, 専任職員)		
19	水	Web(副会長, 小森, 前田, 中村, 河村, 坂本, 小泉, 鏡, 高橋泰, 高橋寿)	Web(副会長, 小森, 前田, 中村, 河村, 坂本, 小泉, 鏡, 高橋泰, 高橋寿)	13:00	各学校, 事務所
			第73回全日中研北海道(札幌)大会第1日目 全日中常任理事会・全日中理事会・全体協議会	9:00	ホテルライフオーポート札幌
20	木	(五役, 越田, 藤田, 玉置, 本川, 吉本, 山田, 高橋泰, 高橋寿)	第73回全日中研北海道(札幌)大会第2日目 開会式・文科説明・全体協議会・分科会	9:00	ホテルライフオーポート札幌
			(五役, 副会長, 吉本, 田丸, 高橋正, 山田, 鏡, 伊藤, 桐淵, 松岡, 高見, 尾崎)		
21	金	Web(小森, 前田, 中村, 河村, 坂本, 小泉, 高橋泰, 高橋寿)	Web(小森, 前田, 中村, 河村, 坂本, 小泉, 高橋泰, 高橋寿)	9:30	各学校, 事務所
			第73回全日中研北海道(札幌)大会第3日目 アトラクション, 全体会, 記念講演, 閉会式	7:45	ホテルライフオーポート札幌
25	火	(五役, 越田, 藪, 藤田, 本川, 吉本, 田丸, 高橋正, 小森, 前田, 中村, 河村, 坂本, 小泉, 山田, 鏡, 高橋泰, 専任職員)	関係機関・御礼挨拶回り(野崎)	9:30	各学校, 事務所
			Web(玉置, 尾崎)	13:55	札幌市役所, 道庁, 道庁別館, 市教委
26	水	第7回小中合同研修会(五役)	第7回小中合同研修会(五役)	10:00	道小事務所
			教員採用に関する協議会(笹川)	10:00	道庁別館(予定)
27	木	道教委への部活動地域移行関連申し入れ(野崎, 笹川)	道教委への部活動地域移行関連申し入れ(野崎, 笹川)	9:00	道庁別館
			第4回五役研修会・中間監査(五役, 専任職員)	10:30	道中事務所
29	土	北海道教育会議運営委員会Web(笹川)	北海道教育会議運営委員会Web(笹川)	14:00	北栄中学校
			日本教育会第47回全国教育大会鹿児島大会Web(野崎, 笹川)	10:00	各学校
11	1	火	北海道青少年科学技術作品展審査会(小森)	9:00	新陵東小
			空知地区 地区別教育経営研究会(小泉, 河村, 坂本)	13:30	北海道グリーンランド ホテルサンプラザ
4	金	北海道教育の日記念行事(三浦, 吉本, 越田)	北海道教育の日記念行事(三浦, 吉本, 越田)	15:00	ホテルライフオーポート札幌
			第50回中学生作文コンクール最終審査会(高橋正)	13:00	北海道放送
8	火	4ブロック研修会(野崎)	4ブロック研修会(野崎)	13:30	北海道グリーンランド ホテルサンプラザ
			第8回小中合同研修会(五役)	10:00	道小事務所
11	金	第1回運営委員交流会(野崎, 笹川, 村上, 新津, 岡本, 田中, 長谷川, 盛永, 水野, 専任職員)	第1回運営委員交流会(野崎, 笹川, 村上, 新津, 岡本, 田中, 長谷川, 盛永, 水野, 専任職員)	10:30	ホテルライフオーポート札幌
			第9回全日中研札幌大会 実行委員会(五役, 副会長, 研修部, 専任職員)	13:30	各学校, 事務所
			第4回理事研修会Web(五役, 副会長, 地区理事, 運営委員, 幹事, 専任職員)	14:00	各学校, 事務所
			令和4年度青少年育成運動活性化研究協議会(坂本)	10:30	かでの2・7